

勉強やスポーツに励んでいます。小学生から二カ国語以上話すことが義務づけられているのも、国際貿易国らしい現れです。

【インドネシア】

バリ島は、ジャワ島の東に隣接する島で、太陽と神話の国とか、地上最後の楽園、夢の島などと言われ、古くからヒンズー文化を信奉している島です。

宗教が生活の一部をなしているために、毎日島のどこかで何かの祭りが行なわれています。テンボ



(ケチャックダンスを踊る伊藤さん)

三人の娘、実に迫力のある踊りです。バリ島を見て行くにつれて、日本の明治時代と現在がミックスしているように感じられます。祭りや踊りが唯一の娯楽のように見えました。私が八ミリカメラを見せれば、レンズを通して見る物体は初めてなので、めずらしく覗いていました。

の早いカメラ音楽で踊るバリの娘や若者は、幸せがいっぱいに見えます。

抜けるような青い空、青い海、そこに浮かぶカヌー、丈高い椰子の木や南国の果物。人なつこい島の人々、田植えをしたり、稲刈りをしている風景は、まさに夢の島とか楽園と言葉にぴったりです。また、南の島で見る夕日もすばらしいものでした。

蟬の声を聞きながら、私たちはケチャックダンスを見学しました。一五〇人もの男性の中で踊る二、

しかし、そんなバリ島にも自動車やオートバイが走り、小学生も通学には、スクールトラックで通っていました。

バリ島には、日本人が七人いると言う。私が会ったのは、その中の二人でした。一人はホテルのフロントに勤めている富山県出身の藤本さち子さん。もう一人は、八日市場市樺出身の伊藤雅博君です。彼は、匠高から拓大をへて、現在インドネシア国立大学のただ一人の日本人留学生として、インドネシア語とバリ語を学んでいるとのこと。まずそのめぐり合いにおどろきました。団員の中で私が彼の郷里に一番近いと言ったこともあって、彼を私の部屋へ招待しました。日本から特に行ったスルメや漬物で一杯くみかわしながら遠い日本の味や郷里の事、バリ島の事など、時のたつのも忘れて話し合いました。

そして、私たちがバリ島と別れる日、彼は空港まで見送りに来てくれました。別れを惜しむ彼と堅い握手を交わし、いつの日か又会う事を誓い合い、私は飛行機に乗り込みました。

【タイ】

大型ジェット機(二九〇人乗り)は乗り心地満点。深夜にバンコック到着。すぐにバスにてホテルへ向う。途中すばらしい道路をバス

は走るしかしこの道路は、ベトナム戦争当時、弾薬や軍事資材を運ぶ専用道路であつたと聞いて、次に視察するベトナムの姿が不安に思えて来ました。

ここバンコックの町も近代的なビルが建ち並び、日本製の自動車やネオンが目にと映ります。しかし仏教の国らしく寺院などは、まばゆいばかりの美しい姿です。中でもエメラルド寺院や暁の寺院などは、代表的な建物です。また水上マーケットなどでは、タイの人々の素朴な生活が見られました。

バンコックにての公式視察は、国立チュラルンコ大学、日本人学校、YMCA、日本大使館などですが、以前の日本の新聞やテレビなどをにぎわした日本商品ポイント運動や不買運動などは、私たち日本人も承知の通りですが、その運動の先頭に立つて戦ったのがこのチュラルンコ大学だそうです。大学見学の前に案内者より絶対政治的な話しはしないようにと注意され、見学したのですが、学内を案内され、学生たちと話すうちに皆うちとけあって、中には「日本に行き新幹線に乗り、桜や富士山を見たい」と言う女子学生。「スキーやスケートをやりたい」と言う男子学生。また「よくタイへ来



(水上マーケット風景)

てくれました。タイの良い所、悪い所を見て行って下さい」と言う学生もいました。また、YMCAを見学すれば、全員握手で迎えてくれ、タイ音楽や若者の歌、タイ舞踊、それにタイボクシングまで見せてくれました。私と相撲をして楽しんだ青年私たちと別れる時、涙さへ浮かべていた若者。あの涙は何を意味するのだろうか、私の頭から今でもはなれない。ほんとうに有意義な交歓会であつた。同じ人間であり、同じ東洋人なのです。理解し合えばトラブルなるものはおこらないはず。私は、あの若者を見て素直にそう感じました。

(六月号へ続く)